

Collect... Preserve
The present collection in the future century

あつめてのこす 収集 保存

展覧会名／企画展 収集→保存 あつめてのこす
会期／2020（令和2）年4月4日（土） - 5月17日（日）
※会期中無休
開館時間／午前9時 - 午後5時（最終入場は午後4時30分まで）
観覧料／一般当日 600円（480円）、大学生当日 400円（320円）、高校生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体割引料金 ※前売り券は販売しません
※年間観覧券所持者は無料。身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者（1名）、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料
主催／高知県立美術館
後援／高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、RKC高知放送、KUTV テレビ高知、KSS さんさんテレビ、NHK 高知放送局、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティ FM 放送
研究協力／東海大学情報技術センター、日本電子株式会社



森村泰昌《肖像（双子）》©Yasumasa Morimura

ここは、過去・今・未来をつなぐ場所。

絵金から岸田劉生、森村泰昌、柳幸典、リヒター、キーファー、そしてバスキアまで。
本展では、美術館が司る「収集」と「保存」というふたつの機能に着目して、高知県立美術館が誇るコレクションを展覧します。
十分とは言えない作品購入予算、南海トラフ地震の脅威と隣り合わせの立地、収蔵庫のスペース不足、現代アート作品保存の難しさ…。1993年の開館から27年。現在の高知県立美術館は、大小様々な問題に直面しています。
しかしながら、今この場所にある作品の背景には唯一無二の物語があり、ひとつひとつがかげがえのない価値を有しています。一風変わった切り口からコレクションをご紹介しますことで、これからの美術館のあり方そのものを問い直します。

●展覧会の見どころ

- ✓初公開となる新規収蔵品には、その収集に関わった学芸員たちが自ら話す音声ガイドを用意。まるでギャラリー・トークを聞くかのように、収蔵に至るまでの経緯を知ることができます。
- ✓絵金からバスキアまで。収集エピソードを交えて高知県立美術館コレクションの粋を紹介します。
- ✓1988年の高知豪雨水害の被災作品を展示。大規模災害が多発する今だからこそ、被災した当館の過去を振り返ります。
- ✓素材や制作のコンセプトが多岐にわたる現代アート作品の保存について、科学分析やアーティスト・インタビューなど、様々なアプローチから考えます。
- ✓高知県民の財産である県立美術館コレクションの今後について再考する絶好の機会です。

●展覧会の構成（予定）

1. 新たなコレクション／新規収蔵品を初公開！

平成30年度・令和元年度に新たに収集した作品の一部をお披露目します。各作品の収集に関わった担当学芸員が、音声ガイドによる「生の声」でその収蔵経緯について語ります。（※音声ガイド機器の貸出無料）

出品予定作家：広瀬東畝、中山高陽、福森白洋、石川寅治、今西中通、中林忠良、高崎元尚、波能かなみ

2. めぐりめぐってこの場所へ／どうしてこれがここにあるの？に答えます

土佐の祭礼を彩った絵金派の芝居絵屏風。近代美術史を代表する画家、岸田劉生が描いた妻の肖像。印象派の画風を明治後期にいち早く取り入れた山脇信徳の油彩画…。いずれも人気の高い作品ですが、そもそもどうしてこれらは当館にあるのでしょうか？そう、美術館に収蔵されている作品には、ここに至るまでに経てきた様々な物語があります。知ると意外な収集経緯とともに作品をご紹介します。

出品予定作家：絵金派、河田小龍、村山槐多、岸田劉生、岡崎精郎、柳瀬正夢、山脇信徳、篠原有司男



絵金派《源平布引滝 竹生島遊覧》

3. コレクション・ハイライト 1980-90's / コレクションの粋を紹介！

コレクションは時代の変化に応じて異なる見え方、価値評価がなされるアクティブな存在です。たとえば当館は、今や国内外で絶大な人気を誇るジャン=ミシェル・バスキアやゲルハルト・リヒターの作品を収蔵しています。高騰する現在の市場価格では、これらのアーティストによる作品を公立美術館が購入するのは絶望的です。つまり、作品収集には時運が大きく影響するのです。そう考えてみると、当館には「あの時しか収集しえなかった」作品が数多くあることがわかります。当館コレクションの核とも呼べる80-90年代の名品の数々を、そのような視点から見てみましょう。



ゲルハルト・リヒター 《ステーション》(577-1)
©Gerhard Richter

出品予定作家：森村泰昌、横尾忠則、福田美蘭、辰野登恵子、ギルバート&ジョージ、ミケル・バルセロ、ゲオルク・バゼリッツ、ジャン=ミシェル・バスキア、ゲルハルト・リヒター

4. 忘れえぬこと / 被災の歴史を振り返る

東日本大震災や台風19号など、近年の日本では天災が相次ぎ、被災する寺社や博物館・美術館が後を絶ちません。当館もまた、1998年9月の豪雨によって美術館北側を流れる国分川が氾濫、収蔵品108点が被災した歴史があります。県民の財産たるコレクションを後世へ伝えるはずの美術館の立地条件の悪さは、その使命とは大きく矛盾しています。しかし、被災してしまったからこそ、当館には出来事の風化を防ぎ、過去の事実を伝える義務があります。被災作品を修復前の写真資料とともに展示し、作品を次世代に継承することの困難と意義について改めて考えます。

出品予定作家：高橋虎之助、片木太郎、筒井広道

5. 作品は何でできている？ / 様々なアプローチで作品の素材を知ろう

美術館の収集対象になる作品は、通常姿かたちをもった「モノ」であることが前提です。では、作品にはどういったモノ、つまり素材が使われているのでしょうか？ここでは、藁など多様な素材が用いられたアンゼルス・キーファーによる傑作《アタノール》の最新の科学分析結果を公開、ミクロの視点から作品の組成に迫ります。さらに、ブラウン管テレビを使ったナム・ジュン・パイクやパク・ヒョンキの作品にも目を向けてみましょう。藁からテレビまで、アート作品に用いられる素材の幅広さには驚かされる



アンゼルス・キーファー 《アタノール》 ©Anselm Kiefer

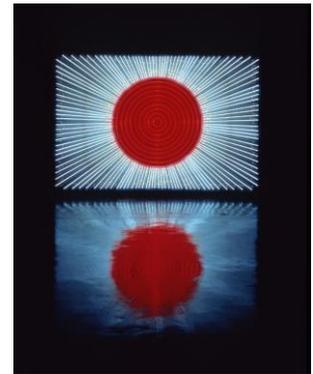
ばかり。作品を構成する素材そのものに注目すると、それらをのこす難しさと課題がおのずと浮かび上がってくるのではないのでしょうか。(研究協力/東海大学情報技術センター、日本電子株式会社)

出品予定作家：アンゼラム・キーファー、パク・ヒョンキ、ナム・ジュン・パイク

6. アーティスト・インタビュー／作り手の見解を聞いてみる

森村泰昌によるユニークなプリクラ機《モリクラ・マシーン》、柳幸典によるセンセーショナルな大作《ヒノマル・イルミネーション》。前者は今故障したら手の打ちようがない旧型のプリクラ機、後者は生産が減り続ける消耗材、ネオン管を使った作品です。これらの傍らには、学芸員がアーティスト本人に作品保存について問いかけたインタビュー映像を並置します。作品の何を、どのようにのこしたいのか。彼らが語る見解は、その制作コンセプトを知るうえでも大変貴重といえます。ぜひ、ふたりの言葉に耳を傾けてみてください。

出品予定作家：森村泰昌、柳幸典



柳幸典《ヒノマル・イルミネーション》
©Yukinori Yanagi

●関連イベント

高知県立美術館 × 高知 蔦屋書店 × 地域文化計画

① 展覧会プレトーク「修復家のお仕事」

講師：大原秀之（絵画修復士）

日時：3月28日（土）19：00－20：00 聴講無料・定員40名（立ち見自由）

※事前予約は原則不要ですが、席を確保したい方は3月27日（金）までに「展覧会プレトーク参加希望」のタイトルで、本文にお名前と人数をご記入の上、地域文化計画のアドレス opalh2019@gmail.com までお申し込みください。

場所：高知 蔦屋書店 2階イベントスペース（高知市南御座 6-10）

お問い合わせ：特定非営利活動法人 地域文化計画 080-6721-3074（中村）

② 関連映画上映会「アートのお値段」

作品の価格を題材にアート市場の裏側に迫るドキュメンタリー。
バスキアやリヒターなど、本展出品作家も登場します。



日時：4月29日（水・祝）①10：30－②13：30－③16：30－④19：30－

場所：高知県立美術館ホール

入場料：1,000円 ※展覧会半券をご提示頂けた方は1,000円→600円に割引

2018年/アメリカ/98分/英語/BD/カラー/原題：THE PRICE OF EVERYTHING/配給：ユーロスペース

監督：ナサニエル・カーン 出演：ラリー・ブーンズ、ジェフ・クーンズ、エイミー・カペラッツォ、ステファン・エドリス、ジェリー・サルツ、シモン・デ・プリ、ジョージ・コンド、ジデカ・アクーニリー・クロスビー、マリリン・ミンター、ゲルハルト・リヒター他

③ シンポジウム「公立美術館における収集と保存」

現在の公立美術館が直面している、作品を「あつめてのこす」難しさや課題について検討し、これからの美術館のあるべき姿を探ります。※情報は当館ウェブサイトにて随時更新します。

日時：5月2日（土）13：00－16：00、聴講無料・事前申込不要（定員：先着50名）

会場：1階 講義室

第1部 発表

塚本麻莉（高知県立美術館学芸員、本展企画者）

田口かおり（保存修復士、東海大学情報技術センター特任講師）

天野太郎（横浜市民ギャラリーあざみ野 主席学芸員、札幌国際芸術祭2020 統括ディレクター）

第2部 発表者によるディスカッション

④ 担当学芸員によるギャラリー・トーク

日時：4月5・19日、5月3・6・17日、各日14：00－ ※5月6日（水・祝）以外は日曜日

集合場所：第1会場入口

料金：無料（要当日観覧券）

■ Guided tour with English translation（英語通訳付き）

Date: Sunday, April 19 2:00 pm – Free with museum admission; reservations are not necessary

■ 手話通訳付き

日時：5月3日、協力：一般社団法人高知県聴覚障害者協会

そのほかのサービス

● 無料託児サービス

有資格のベビーシッターによる託児サービスです。ご観覧中、安心してお子様をお預けいただけます。料金無料（要当日観覧券）。

日時：4月29日（水・祝）－5月3日（日）全5日・各日2回（10:00－12:00／13:30－15:30）

場所：1階 講義室 定員：各回10名（入替制）

申込方法：お電話（088-866-8000）でお問合せの上、4月26日（日）までに申込書をご送付ください。

シッター提供：NPO法人ムッターシュール

● ティーチャーズ・ウィーク

4月12日（日）から19日（日）までの期間中、高知県内の教職員の方*を展覧会に無料でご招待します。図工や美術以外の先生でもご参加いただけます。4月11日（土）までにお電話（088-866-8000）にて事前にお申し込みください。

*保育園、幼稚園、小・中・高等学校、盲・聾・特別支援学校の教員・職員

●広報用作品画像提供について

広報用に以下の画像をご提供いたします。ご希望の方は下記をご一読のうえ、担当者メールアドレスにご連絡ください。



絵金派《源平布引滝 竹生島遊覧》
制作年不詳 高知県立美術館蔵



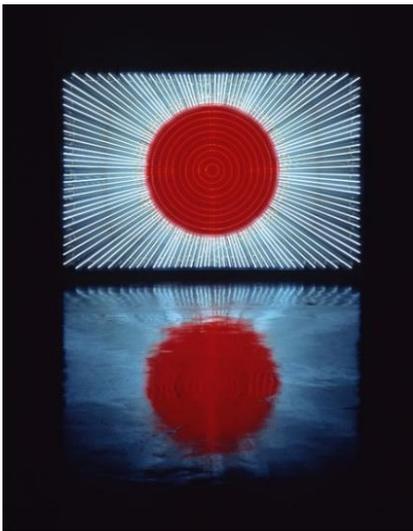
岸田劉生《画家の妻》
1914年 高知県立美術館蔵



ゲルハルト・リヒター《ステーション》(577-1)
1985年 高知県立美術館蔵
©Gerhard Richter



森村泰昌《肖像（双子）》
1988-90年 高知県立美術館蔵
©Yasumasa Morimura



柳幸典《ヒノマル・イルミネーション》
1992年 高知県立美術館蔵 撮影：上野則宏
©Yukinori Yanagi

〈使用条件〉

- ・画像を掲載する際には、キャプションとクレジット（画像右横）を併記してください。
- ・トリミングや文字の被せがないよう、レイアウトにはご注意ください。
- ・掲載誌、URL、番組収録のDVD、CDなどを後日お送りください。

以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

〈担当者連絡先〉

高知県立美術館 学芸課 塚本・中谷・朝倉

Tell : 088-866-8000

Email : mari_nakamura@kochi-bunkazaidan.or.jp (塚本)